



episode.01

石ノミで切り出す硯石 すずりいし

話し手 レストラン「ことぶき吉都露」オーナー
ことぶき 壽 哲男さん (昭和25年1月24日生)

聞き手 鹿児島県立屋久島高等学校1年
 日高 了 河口 悠真
 日高 宗一郎 大木 咲愛
 宮脇 優月 矢野 泰佑

「屋久島の石で作る硯石」

私は種子島で生まれ育ち、ちょっと都会に行きました。それから、ここ屋久島に住まわしてもらって48年ぐらになります。で、硯石作りを始めたのは24～25年前。この仕事を始めたきっかけはね、元々は恵命堂けいめいどうって言って我神散がしんさんを作る会社で24年間働いてたのね。当時の工場長の山本秀夫さんが、たまたまこの本を見つけて、その中に屋久島で硯石を作っていたという文章が載っていたの。しかも、硯石の材料は屋久島の石が一番いいというのが書いてあったんです。それを見た工場長が、「じゃあこの屋久島大社の事業部で硯石を作ろう」って言って、それが始めたきっかけ。今は注文が来れば私が個人で作るっていう感じです。

「硯石作りと石の選び方」

硯石の石の正式名称は頁岩せつがんと言って堆積岩なんだけど、黒色のやつですね、それ自体は島にたくさんあるんだけど、一ヶ所だけ良い石が採れるところがあるんです。それは、志戸子の津守ってところで、この石が一番いい。在庫も少しはあるけど、その都度海岸に行って良い形の、いい顔立ちの座りのいい石を探してくる。頭が小っちゃいほうがいいの、卵みたいな形。初めに器みたいに石をカットするでしょ。小っちゃいのは早いけど、大きいになると1日ぐら掘るの。掘ったら専用の砥石で磨いていくんだけど、一個作るのは2日あればできる。掘るときの下書きは形に合わせて、石に合ったいい形にする。

石を削ることは女性でもできると思うよ。要領があるんだよね。力だけではダメだね。ちょっとしたコツがあって、その気になればだれでもできると思う。怪我をすることはない。作る時にノミを使うんだけど、手は横に置く。叩いて作るんじゃなくて、硯石は削っていくって感じだから。



「職人のこだわり」

まあ姿の良さもそうだけでも、大切なのは「黒がおりる」か。擦るところを黒道とか丘、溜まる場所を海とか池とかいうんだけど。段階を踏んで磨き、最後は磨研石で仕上げる。値段は大きいから高い、小さいから安いという訳じゃなくて、小さくても高いのがある。

作っている時って、根気も必要だよ。やっぱ本物を見なきゃだめだよ。形とかイメージとかを入れていかないとね、屋久島ではあんまり職人さんが作った作品としての硯石を見られない。

「心に残る硯石」

硯石の需要ってないでしょ？みんな墨汁で済ませてしまおうし、筆ペンとかあるよね。だから本当に硯が好きな人だったら探してくるよね。こっちから宣伝をして売り出そうとは今まで思ったこともないし、今も思わない。私が作ることができる間は作ってみようと思う。後継者がいなくなったらなくなるかもね。後継者がいればねえー、探して、教えてください。

